

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720331

研究課題名(和文) 江藤新平と明治草創期の国家形成に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Eto Shimpei and Nation Building in Early Meiji period

研究代表者

星原 大輔 (HOSHIHARA, DAISUKE)

早稲田大学・社会科学総合学術院・非常勤講師

研究者番号：70454072

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、江藤新平の具体的な言動を検証し、維新政府の立法、司法、行政の実態を解明することである。本研究では、検証する時期を明治2年11月から4年7月に限定し、江藤が明治元年以降に維新政府の首脳からどのように評価されていたのか、そして彼の言動がどのように変化し、また変化しなかったのかを見出していくこととした。検証を行なった結果、現在確認されている関係文書中に、従来知られていなかった官制改革に関する書類の草稿の一部が存在すること、さらに江藤と維新政府首脳との具体的な政治的関係が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine the real state of affairs of legislation, justice, and administration in the Meiji government related with Eto Shimpei's words and actions. I limited the discussion to the period from January, 1869 to September, 1871. I examined to the evaluation of government leaders to Eto, consistency and change of his words and actions. The following results were obtained:

- 1) I found out drafts of regulations for governmental organizations reform in the documents of Eto Shimpei
- 2) The documents of Eto Shimpei made it clear that Eto had a political impact on government leaders.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近現代史 江藤新平 維新政府

1. 研究開始当初の背景

- (1) 天保5(1834)年に佐賀で生まれた江藤新平は、手明鑓(てあきやり)という低い身分であったため、藩政にはほとんど関わっていない。もちろん、中央の政局も同様である。しかし明治維新を迎えると、その才覚は三条実美、岩倉具視、大久保利通、木戸孝允ら政府首脳によって認められ、太政官中弁・文部大輔・左院副議長・司法卿・参議等々、維新政府の要職を歴任した。江藤はその間、官制改革、教育行政、宗教行政、司法制度改革等々、幅広い分野にわたって活躍したが、明治6年の征韓論争を機に下野し、翌7年佐賀の乱の首謀者として梟首の刑に処され、その生涯を閉じた。享年41歳。
- (2) 近年、江藤新平の言動に関して注目すべき学術論文が多数発表されており、彼に対する関心は年々高まってきている。明治4年の岩倉使節団が出発するまでの政策決定は、岩倉具視・大久保利通・木戸孝允など明治政府首脳によって行なわれたことは事実である。しかし彼らが最終決定を行なう前段階において、江藤新平が政府首脳の意向を受け、あるいは独自に、実におびただしい数の書類を作成していた。そして使節団の出発後には、江藤は左院副議長、司法卿、参議を歴任して、留守政府の政策決定を牽引した。したがって、江藤新平関係文書など各関係文書の史料収集、解読や分析に努め、広範な行政分野に関与した江藤の全体像を明らかにすることは、彼の伝記研究にとどまらず、明治初期の国家形成の変遷を考察する上で必要不可欠である。
- (3) 歴史研究の要諦は、史料の正確な読解と丹念な分析にある。江藤の場合、佐賀県立図書館所蔵の「江藤家資料」が、これまで江藤新平研究の基本史料として利用されてきた。このうち「書翰の部」は、代表者も参加した江藤新平関係文書研究会によって、ほぼ解読がなされてきている。これらの原史料は直孫の江藤冬雄氏が旧蔵していたものであったが、2004年度より科学研究費・基盤研究(B)(1)「江藤新平関係文書の総合調査」(研究代表者：島善高早稲田大学教授)に代表者も補助員として参加し、全国各地の公共機関、大学図書館、個人宅などを調査したところ、冬雄氏以外の子孫または江藤家の縁者が多数の一次史料を所蔵していることが判明した。その詳細は「江藤新平関係文書所在目録」に明らかである。当然のことながら、こうした新史料は、これまでの研究にはほとんど反映され

ていない。

- (4) 上記の関係史料を基に、江藤の明治元年前後における言動を再検討した結果、江藤自身の動向にとどまらず、維新政府の当時の財政(由利財政)における通説の誤りや新事実が明らかになり、明治初期における財政史、政治史などの関連研究に新たな見解を示し得た。と同時に、今後の課題も明確になった。第一に、江藤の当時の政治的影響力である。すなわち維新政府の首脳が江藤の言動をどう評価していたのか、そして実際の政策にどこまで反映されたのかである。第二に、江藤のその後の政治的行動との関連性である。その後の政策立案に一貫性が見出せるのであれば、彼の国家観などが自ずと浮かび上がると思われる。

2. 研究の目的

本研究テーマは「江藤新平と明治草創期の国家形成に関する基礎的研究」である。江藤の具体的な言動を検証し、維新政府の立法、司法、行政の実態を解明することが目的である。

ただし検証する時期を、江藤が今の内閣法制局に相当する「太政官中弁」に就いていた時期、すなわち明治2年11月から4年7月の廃藩置県までに限定した。

まずは、前述した新史料の読解に専念したのち、既知の江藤新平関係文書をはじめ、諸関係文書の一次史料を交えて史料分析を深めて、江藤の中弁任期中の具体的な言動を明らかにする。そして、江藤が明治元年以降に維新政府の首脳からどのように評価されていたのか、そして彼のこの時期までの言動における一貫性と変化を見出していくこととした。

3. 研究の方法

- (1) 江藤新平の言動や思想の一貫性と変化を考察するためには、江藤自身の史料を検討する事が第一義である。佐賀県立図書館に所蔵されている「江藤家資料」の再検討が本研究課題の最も基礎的作業である。なお、これらは既にマイクロ化されているが、背景画などのために不鮮明な箇所や墨が薄い箇所があるものが多々ある。これらについては、現物を確認する必要があるため、佐賀県立図書館に出張した。
- (2) 当該図書館には「鍋島家文書」が寄託されており、これらも併せて調査した。関連の史料を見出した際には、マイクロか

ら紙焼きを行なった。

- (3) 岩倉、大久保、木戸ら維新政府の首脳が江藤の言動をどのように評価されていたのかを明らかにするためには、その周辺人物の史料を検討しなければならない。すでに翻刻活字化されている史料以外の史料も検討する必要があるため、各研究機関（国立国会図書館憲政資料室、宮内庁書陵部、国立公文書館、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センターなど）が所蔵する関係文書を調査した。その中から、本研究の目的に関連する書翰や書類を見出した際には、コピーまたは紙焼きを行なった。これ以外にも、関係史料が所蔵されている研究機関で史料調査を行なった。
- (4) こうして各所で収集した史料と、これまで収集した史料の解読作業を進め、その内容分析を行なった。以上の分析の終えた史料を基に、学術論文を作成していった。
- (5) 明らかとなった事柄・情報は、これまで作成していた「江藤新平関係年譜」に随時加えていった。

4. 研究成果

- (1) 江藤新平の原史料の大部分を所蔵している佐賀県立図書館において、「江藤家資料」の原本調査を行ない、マイクロでは判読できない箇所を確認した。
- (2) この他、以下の研究機関においても、史料調査を行ない、江藤自筆の新史料を見出した。また研究課題に関連する史料についても、それぞれ複写（紙焼き、またはデジタルカメラ撮影）を行なった。
 - 佐賀県立図書館蔵「江藤家(茂国旧蔵)資料」
 - 佐賀県立佐賀城本丸歴史館蔵「江藤新平関係文書」
 - 福岡市総合図書館蔵「早川家資料」
 - 鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託資料「玉里島津家文書」「大久保利通関係史料」
 - 松浦武四郎記念館蔵「松浦武四郎関係文書」
- (3) 江藤が「太政官中弁」に就いていた時期（明治2年11月から4年7月まで）の言動については、的野半助『江藤南白』（大正3年）によってある程度整理されている。しかし当該書籍は当時明らかになっていた史料を基にしており、その内容は現在の研究水準では不十分と言わざるを得ない。現在確認されている江藤新平関係文書中には、おびただしい官制

改革に関する書類の草稿が現存している。今回、それらの内容を精査し、先行研究（関口栄一「集権化過程における政治指導」、松尾正人『廃藩置県の研究』など）を参考にしながら、作成過程を再検討した。その結果、新史料の中に、従来知られていなかった草稿の一部が存在することが判明した。また複数の史料を突き合わせたことで、いくつかの書翰の年代を新たに特定した。岩倉使節団以前の岩倉具視の家扶日記を新たに見出し、江藤が岩倉と面会した日が明らかになった。この他の史料と併せて、維新政府首脳の動きが新たに判明した。以上の点に基づいて学術論文を作成していたが、完成するまでには至らなかった。早急に取り纏めて発表することが、今後の喫緊の課題である。

- (4) 上記の作業と並行して、明らかになった事柄・情報を、これまで作成してきた「江藤新平関係年譜」に追記し、その内容を補充した。
- (5) なお史料調査の過程で、江藤新平の次男・江藤新作の関係史料が多数存在していることを確認した。江藤新作は大隈重信と政治的行動を共にしており、明治期の憲政史を考察する上で重要な人物である。しかし関係史料が乏しかったため、その実像はほとんど明らかではなかった。したがってこれら史料群の検討は、近代史研究における今後の重要課題であると思われる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

星原 大輔、齋藤 洋子、江藤新作日記（明治24年～25年）佐賀県立佐賀城本丸歴史館研究紀要、査読無、第7号、2012、26 - 41

星原 大輔、早川景矩関係史料、法史学研究会会報、査読無、第16号、2012、155 - 165

〔学会発表〕(計1件)

星原 大輔、江藤新平と由利財政、法史学研究会第153回例会、2012年7月25日、明治大学駿河台キャンパス

〔図書〕(計1件)

星原 大輔、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、江藤新平（佐賀偉人伝）2012、110頁

6 . 研究組織

(1)研究代表者

星原 大輔 (HOSHIHARA , Daisuke)
早稲田大学・社会科学総合学院・非常勤
講師
研究者番号：70454072